

中部の

エネルギーを 築いた



木曾谷の夜明け ~その2~

木曾谷の実業家、政治家・小野秀一

小野秀一は1897(明治20)年、長野県福島町下町に生まれた。明治32年に上京し、1909(明治42)年慶応義塾大学を卒業した。

卒業後、地元福島に帰り新進実業家として、福島電気(株)設立発起人、木曾川電力(株)の常務取締役、株式会社電気製鋼所(大同特殊鋼の前身)取締役、御嶽交通自動車商会(おんたけ交通の前身)の設立などに参与し活躍した。

一方、政治家として福島町会議員(明治44年当選)、西筑摩郡会議員(大正2年当選)、長野県会議員(大正11年当選)、衆議院議員(大政翼賛会の推薦を受け昭和15年当選)、さらに1940(昭和15)年、福島町財政更生の特別任務を負い福島町長に就任した。この他、福島町農業会長、西筑摩郡町村会長などに選任されたが、1941(昭和21)年の公職追放令によりすべての公職を去った。

今月号は、木曾谷の実業家・政治家として活躍した小野秀一を、主に電気事業経営者の観点から政治家として県政、国政に提言した概要を紹介する。



小野秀一

〔出典：大同電力50年史〕

福島電気から木曾川電力へ発展

福島電気(株)は、1907(明治40)年に設立され、杭の原発電所(出力：50kW)を建設し営業を始めた。この際、小野は横浜で貿易関係の仕事をしていて英語に堪能な親類の岡村寿太郎を呼び、英語で書かれた水車や図面の仕様書などを訳しながら完工させた。

名古屋電灯から独立分離した(株)電気製鋼所は福島電気と1919(大正8)年に合併した。この時、小野は電気製鋼所支配人(木曾福島営業所長)に就任した。その後、1922(大正11)年、熱田工場と福島工場を大同製鋼に現物出資して、製鉄部門を切り離し、商号を木

曾川電力(株)と変更した。(詳細については7月号参照)

木曾川電力(株)の定款には、

- ① 製鉄、製鋼、特殊鋼、合金鉄の製造販売及びこれに付帯する諸般の営業
- ② 一般電灯電力の供給
- ③ 自家用電気事業並びに電熱工業の経営
- ④ 当会社の営業部類に属する事業の株式を所持し又はこれ等の事業に資金を融通しもしくは保証を為すこと

の4項目に亘る営業目的が記載されている。

長野県会議員としての活躍

小野は大正11年から昭和16年まで5期連続当選、昭和10年には県会議長に就任した。この間、県政史上特筆すべきものとして、昭和3年に廃娼運動、昭和11年に県営電気事業に関する「公営電気の行方」を冊子にまとめ県会に提出したことなどが挙げられる。

(1) 廃娼運動と女子参政権に対する意見書

この運動の中で、廃娼決議のステップとして婦選獲得同盟理事山高しげりを招き「女子参政権に関する意見書」案を提出し全国に先駆け県会で決議、日本でも女子参政権を認めることは「政治に一新生面を拓き一抹の新味を加え、殺伐に代ふるに霽々たる和気を以てし、紛々擾々寛ふするに温良なる調和がみられるようになる」と評価し、「先進諸外国も、女子参政権を認めてから、社会教育、公衆衛生、婦女子の売買、貧民救助などの諸施設において進歩改善の跡が明らかである」と参政権の生み出す効果を述べている。

(2) 「県営電気施行に関する私見」として、県電に対する「公営電気の行方」を刊行

県電と長野県内の電気事業者の方向を「公営電気の行方」として、次のような内容で刊行した。

- ① 前提編—県電に対する県民側と当局側の両者の意見、意向が前提となることを提示した。
- ② 視察編—県電の先行県である高知県、山口県、富山県、宮城県、青森県の5県を実状と将来性について視察した。
- ③ 検討編—視察をもとに長野県の経緯や一般財政に与える影響など将来性を検討した。
- ④ 結論編—現前の時局より県民、電気事業者に与える影響などを鑑み、その実現が困難であることを趣旨とする小野自身の意見書をまとめた。



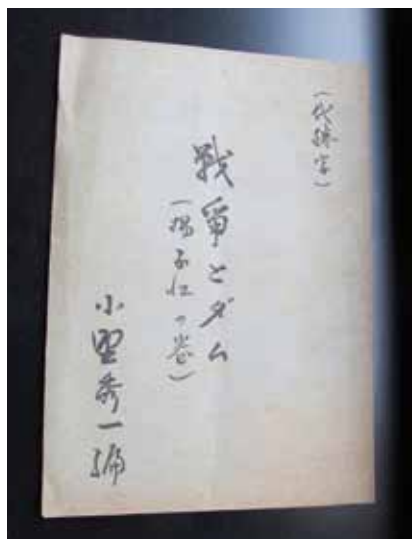
1936(昭和11)年7月30日に発行された「公営電気の行方」

衆議院議員として「戦争とダム」の提言

1940(昭和15)年4月、大政翼賛会の推薦によって長野県第4区から衆議院議員に立候補当選した。そして地方政治から非常時の国政議員として、「戦争とダム」の題下に「揚子江の巻」として2つの企画案をまとめた。1943(昭和18)年2月11日・建国祭の日に提出された大要は次のとおりである。

- ① 目的：蒋介石水攻め、大発電所の建設、日本内地送電、揚子江流域治水の大業完成、食糧大増産、戦争処理
- ② ダムの地点：宣昌上流150km、巫山峡
- ③ 流域面積：約百万平方km
- ④ 流水量：約1億1千1百万m³(四十万立方尺)毎秒
- ⑤ 第1案：発電出力：四千六百万kW(ダムの高さ：500m)
- ⑥ 第2案：発電出力：千九百三十万kW(ダムの高さ：200m)

このように、当時としては、もう空想と化したハイダムと無尽蔵の水による大発電所の建設を提言した。



1943(昭和18)年2月に上梓された「戦争とダム(揚子江の巻)」

小野秀一の略歴は次のとおりである。

小野秀一の略歴

1897	明治20	福島町下町にて生まれる
1809	明治32	上京、慶応義塾普通部入学
1909	明治42	慶応義塾大学法律科卒業
1911	明治44	福島町会議員に当選
1913	大正2	郡会議員に当選
1922	大正11	長野県会議員に当選
1931	昭和6	大同電気製作所取締役(昭和20まで)に就任
1935	昭和10	長野県会議長に就任
1940	昭和15	福島町長に当選 長野県第4区から衆議院議員に当選
1972	昭和47	死去

(寺澤 安正)